全日本民医連共同組織活動交流集会 in 山梨（オンラインプレ企画）が開かれました

昨年開催予定の交流集会ですが、コロナ禍で延期となり、今回はＺＯＯＭ視聴による集会参加となりました。「コロナ禍を乗り越え平和・いのち・人権のつながりを強める街づくり」をテーマに、全国から7つの指定演題が選ばれ、その活動報告を受けました。岐阜健康友の会では、コロナ禍でもそれにめげず活動をすすめている内容を学び、これからの支部活動に生かすべく、友の会支部全体会議も兼ね、また秋の活動強化月間の、スタート集会も兼ねるという意義づけをもって取組みました。残念ながら全支部の参加ではなかったのですが、人数が制限されるなかでの参加となりました。岐阜県からは19名が参加しました。

演題の内容は、①「つながろう！一万人対話作戦に取り組んで」（北海道）②「『春の市』よってけしでもってけし～食糧支援事業を通じて広がった地域とのつながり～」（山梨）③「コロナに負けないない『まちかど健康チェック』のとりくみ（神奈川）、④子ども食堂と地域の援助で『働きながら高校進学』を選んだＡ君の物語（大阪）⑤コロナ禍でも絆をたやさずに！～支え合いと健康づくりの班会」（岡山）⑥コロナ禍で支え合う共同組織のとりくみ（福岡）最後に、「沖縄県民は認めない！許すな！辺野古新基地建設とコロナ感染拡大」（沖）では沖縄の現実を学びました。

友の会として、上記活動の内容をもとに、秋からの活動メニューを作成し呼びかけています。また交流集会では民医連副会長根岸京田副会長の記念講演と、地元の市民参加の文化企画「憲法ミュージカル」がされました。

（友の会事務局長　熊崎）

QRコードから入り
YouTubeで
上記交流集会を
見ることが
できます。

おかげさまで30年

あなたと民医連をつなぐ月刊誌

『いつでも元気』を読みませんか

「いつでも元気」は今年で30周年です。

全日本民医連は地域のみなさんとともに、健康づくり、安心して住み続けられるまちづくりにとりくんでいます。1991年創刊。地域のみなさんと民医連をつなぐ月刊誌です。

現在の購読者数は全国で52,273部（2021年10月号）と多くの方が購読をされています。

1冊380円（月1回発行）

購読希望の方は友の会までご連絡ください

TEL058－244－3522

9条を守ろう

苦笑の兵隊検査

私は満二十歳のとき郡役所で検査を受けた。徴兵検査は礼儀正しくせねばならないというので、前日に整髪入浴し下着類は全部新調物に取り替え陛下の前に出るような緊張した気持ちだった。猿股や六尺ふんどしなどは許されず前だれ式の二尺くらいのふんどしだった。それは中央部前後の部分検査に便なように。

受験者に不都合があれば村の不名誉であり、なるべく多くの甲種合格者をだすのが村の誇りだった。だから、村長さんの教育指導も厳しかった。検査は厳格で若し虚偽の申立てだとすれば黒の襟章をつけた憲兵から鉄拳の制裁をうけるのでみんながビクビクして受けた。

全検査が終わると二人一人司令官の前に呼び出され名誉の宣告を受けるのだった。

お前は「第1乙種」と言い渡された。「有難うございます」と言いたい程嬉しかったがそんなことをいうものなら不忠者と憲兵につれられてしまう。嬉しくても不合格で残念だというような顔つきをせねばならなかった。

私が甲種合格にならなかった訳が3つある。第1は軍縮時代であったこと。第2が聯隊区管内で既に予定人員がほぼ徴発し終わっていてそれ以上の人員が必要なかったことが幸いした。第3は母親の愛情であろう。

こんなことは時効で今だから話せるが実は母が検査の前晩こっそり墓場から小石を拾ってきてそっと私のポケットに入れてくれたのである。どこで聞いたのかお墓の小石を検査場に持ってゆくと必ず不合格になるという迷信を母は自分の願いとしたのである。このことを知っているのは私と母の二人だけだった。検査中私はこの小石をなでながら母を思いなくさないようにしっかりとつかんでいた。こんなことが検査官に知れたら母子は国賊とののしられ恥ずかしい思いをしたことだろう。今でこそ迷信と笑っていられるが無量の感がする。

（昭和53年8月、会員さんからの提供記事）

芥見南支部のあゆみ

私たちの芥見南支部は37年前の1984年に発足しました。

待ちに待った「みどり診療所」ができ、第1回目の総会が大洞集会所にて20人程でスタートし、会費が月50円と決まり、活動の基盤ができました。現在も会費は変わっていません。

初代の体制では、みなさんの希望と期待にあふれ、支部を運営するための財政活動に、しめ縄・蒸しパン等を作り、みどり病院で販売をしていました。会員は25名程を維持していました。

14年目（1998年）から世代交代した体制になり、支部の小旅行が組み込まれるようになりました。このころは50名ほどの会員になり、病院職員さんたちと一緒に活動できていたことを懐かしく思います。

30年目（2014年）頃から現在の体制になり、会員が楽しく参加できるよう、お出掛け食事会・春の手作り食事会など活動の工夫をして進めてきましたが、高齢化で会員が徐々に減ってきました。

令和になって3年。コロナ禍で、班会ができる場所等もないため、会員の皆さんが友の会に何を期待されているかが見えなくなっています。（仲井）

コロナ前の活動の様子

公民館での班会の様子

春のお食事会を皆さんで作っている様子

華陽支部紹介

コロナ前のサロンの様子

華陽地域に「命」の灯台「華陽診療所」が建設されて50年を超えました。この診療所を支え共に岐阜市中南部で活動しているのが華陽支部です。

華陽支部は、「地域住民の現状の中に「チョット声掛け」「チョット相談」「チョット手助け」『人』の字のような寄り添いの地域社会を「モットー」にして活動をしています。

①困っている人を見つけることを重視しています。地域に入って対話すること、喫茶店等での雑談の中で出される悩みや要求を聞き、社会保障制度につなげ困っている方に100名以上寄り添ってきました。

②地域に惚れこもうと、地域の歴史を知るために「地域歴史散策」をおこない、ウォーキングをしながら、歴史を学ぶ企画を行っています。歩けない方には「目でウォーキング」と地図を広げ座談会形式で行っています。

③5年前に待望のサロン「羅衣布」をひらきました。コロナ禍で現在は中止していますが、コーヒー、お菓子を飲食しながらおしゃべりをしたり、筋トレ・落語・童謡・生活相談等などを行っていました。

④高齢化の課題でもある認知症の方が普通に生活できるよう、「認知症フレンドリー社会」をつくろうと地域包括支援センターと一緒に勉強会等行っています

今、コロナ禍で支部が「モットー」とする活動をどう進めるかが大きな課題となっています。

（支部長　堀田紀治）

11月11日は、「いい介護の日」

介護・認知症なんでも無料電話相談

お気軽にお電話下さい！

新型コロナウイルス感染の拡大で、介護サービスを利用できない、家族介護の負担が増えて大変になったなど様々な悩みがありませんか。
また、高齢化がすすむなか、お金の心配なく安心して介護サービスを受けたいがどうすればよいか悩んでいませんか？
一人で悩まず、介護の専門家や「認知症の人と家族の会」の相談員がお電話をお待ちしています。
全国共通のお電話番号は・・・

とき 2021年11月11日（木）午前10時～18時

でんわ 0120-110-458

2000年4月から「介護の社会化」を図る目的で始まった介護保険制度は、20年が経過しました。現状は、利用者の負担が増え、介護現場の人手不足、特別養護老人ホームの入所制限など制度の改悪が進む一方です。

今般の新型コロナウイルス感染症は、介護現場を直撃しています。

このような事態が進行する中で、中央社会保障推進協議会の呼びかけで、全国で11月11日（いい介護の日）に下記案内の**「介護・認知症なんでも無料電話相談」**を岐阜県社会保障推進協議会が実施する事になりました。介護や、認知症などで困っている事等あれば、上記フリーダイヤルにご連絡ください。